

令和4年度 コミュニティから「市政へのご提言」

本島コミュニティ

提言項目①	本島港浮棧橋の安全性の確保
提言理由・内容	<p>本島・牛島島民にとって、本島港は、通勤・通学、通院、買い出しなど、日常生活のあらゆる場面で利用せざるを得ない場所である。</p> <p>ほとんどの島民が利用する本島港の浮棧橋であるが、構造上の問題なのか段差が生じ、また、干潮時は急傾斜となり、高齢者が利用しづらだけでなく、雨天時においては転倒するケースも見られる。</p> <p>急傾斜では消防団が使用している緊急搬送車も入ることができず、車両から旅客船まで担架での搬送が必要となり、消防団、患者ともに負担が増している。</p> <p>本島コミュニティの高齢化は急速に進んでおり、利用者にとって現状のままでは生命にもかかわる危険もあるため、前向きな対応をお願いしたい。</p>
回答	<p>本島港浮棧橋連絡橋は、1970年に設置、今年で設置後52年が経過することとなります。その間、部分的な補修などを行いながら使用してきましたが、老朽化が目立ち始めています。このことから、本市では、連絡橋の交換も含めた改修計画に着手することを予定しております。</p> <p>ここで、今回いただいた「島民の高齢化」や「緊急搬送車での利用」など大変貴重なご意見については、計画時にできる限り反映できるよう前向きな対応に努めたいと思います。</p>
提言項目②	車検時の航送料等の負担軽減
提言理由・内容	<p>高齢化と公共交通機関の乏しい本島・牛島では、自家用車によって島内を移動している島民が大半を占めており、島民の生活に必要不可欠なものである。また、自家用車を所有・利用する場合は一定期間ごとに自動車検査登録（以下「車検」）を行わなければならない。しかしながら、島内では車両の点検・検査を請け負う自動車整備事業者が現在存在しておらず、島内で自家用車を利用する方は陸地部にて車検を受けざるを得ない状況である。</p> <p>その場合、車両を陸地部と島嶼部へ往復して航送しなければならず、その航送料は当然のことながら利用者負担となり、車検を行う際において島民にとって重い負担となっている。</p> <p>そのため車検時などの法定検査を受ける際に、丸亀市による費用の一部負担等の補助をお願いしたい。</p>
回答	<p>本島をはじめ市内島しょ部においては、人口減少に加え、高齢化が顕著である中、島内での移動手段として自家用車の役割は非常に大きい</p>

	<p>ものと認識しております。また、その自家用車を維持するには、一定の経費がかかるうえ、島しょ部ゆえに、点検・車検時等の航送料が追加負担となるため、現在、本市においては、自家用車を廃車する際の航送料に対し、その8割を補助する制度を設けています。</p> <p>今回のご提言内容につきましては、現行制度の拡充による新たな財政負担が伴いますことから、今後、島しょ部全域のニーズの把握や国や県、他市町の動向など、幅広く情報収集しながら、本市における離島振興施策の一つの検討課題とさせていただきたいと考えますので、ご理解いただけますようお願いいたします。</p>
提言項目③	泊地区臨時排水ポンプの電源について
提言理由・内容	<p>大雨、台風時の排水対応のひとつとして、泊地区に臨時排水ポンプを設置していただけると聞いている。台風等のたびに主要道路が冠水し、対応に追われていたため、非常にありがたい。</p> <p>しかし、せっかく設置していただいても、災害時に停電が起こるとポンプは作動せず、被害が拡大する恐れがある。海への排水作業のため、干潮となるまでの6時間程度の排水が非常に重要となる。</p> <p>停電時の対策として、今回の臨時排水ポンプの電源については、非常用発電機（移動式）の設置をご検討いただきたい。</p>
回答	<p>大雨や台風時の水防活動にご尽力いただきありがとうございます。</p> <p>今回、「市政へのご提言」で頂きました「災害時の停電に対応するための非常発電機（移動式）の設置」については、島しょ部における停電時の浸水対策の難しさを認識させられました。このことから、今回ご提案いただいた非常発電機の設置や地元消防団などのご意見を参考に、今後、停電対策について検討させていただきたいと思っております。</p>